

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2018 年

ボジョレーヌーボーの収穫がついに始まった！

2018 年は、冬から 6 月まで日照量と適度な雨に恵まれた理想とも言える天候が続いている！開花もうまく行き、ブドウの房は豊作を期待させるくらいたわわに実っている！8 月の前半は心配されていた猛暑が続いたが幸い雹はなく、後半は気温も落ち着き、朝夕の寒暖の差がブドウの成熟のスピードを一気に早めた！ボジョレーではすでに誰もが「歴史に残るグレートヴィンテージになる！」と確信している！

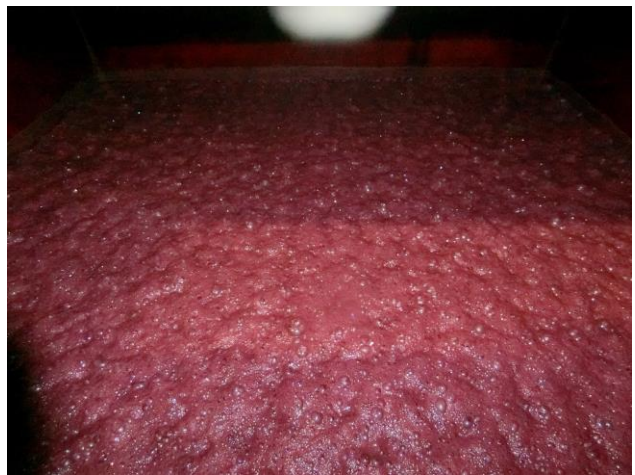
カリーム、ジャンの、フレッド&ケヴィンの収穫と仕込み情報をレポートします♪

☆ カリーム・ヴィオネ

収穫は 8 月 27 日にスタートし、昨年より 1 週間早い収穫だった。今年はまれに見る素晴らしいヴィンテージであることは間違いない！どのブドウも見た目がきれいで収量も多く、何よりブドウの質が高い！デキュヴァージュは 9 月 10 日に行ったが、ワインのアルコール度数は 11.5%~12%の間に収まりそうだ。2018 年は、近所に住む 80 を超える現役ヴィニョロンや、かつてヴィニョロンだった先人たちも、これまでに例のない歴史的なミレジムだと口をそろえて言う。一番驚いたのは、夏が乾燥していたのに、最終的に収穫したブドウにたっぷりと果汁が含まれていたことだ！2015 年のように日照りによるブドウの収量減があってもおかしくなかったが、今年は春の雨がしっかりと地中に蓄えられていたのか、猛暑で太陽が照り付けてもブドウから水分が抜けることがなかった。今年はランティニエのブドウだけで十分まかなえる為、ランシエのブドウはアッサンブラージュせずに、通常のボジョレー・ヴィラージュにするつもりだ。ヌーヴォー史上まれに見る素晴らしいワインが出来上がることを期待せずにはいられない！



収穫風景



プレス後のワイン

☆ ジャン・フォワヤール

収穫は昨年と同じ 9 月 4 日にスタートした。8 月は結局ほとんど雨が降らなかったが、ブドウは乾燥に耐え、久々の豊作を迎えることができた！現在仕込んでいるワインのジュースを試飲しても分かるが、今年は 2016 年のように果実味がエレガントでジューシーなワインが期待できそうだ。私個人が今年の素晴らしい点を挙げるとすると二点。一つは雨が収穫直前に降った訳ではないのに収量が取れたこと。乾燥した天候の中でブドウの果汁が確保できたということは、すなわち根がゆっくりと地中のミネラルを吸い上げ完熟したと言える。収穫直前の雨だと根は水分だけ勢いよく吸い上げしばしばブドウの中身が希釈されてしまうが、今回収穫

したブドウは酸の奥にミネラルリティがたっぷり感じられる！二つ目は発酵に勢いがあること。マセラシオン中は毎日果房の香りをチェックするのだが、例年だといくつかのタンクから酢酸エチルの香りがするのだが、今年は皆無だ！それはすなわちバクテリアが繁殖しにくいくらい発酵が活発だという証拠だ。とにかく、今年のヌーヴォーは歴史的な当たり年であることは間違いない！



ブドウの状態は完璧！



カーヴに運ばれたブドウ

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

マルシャン村のブドウはまだ全てのブドウが完全に熟しておらず、収穫は9月19日以降になることを見込んでいる。今年はヌーヴォーのピックアップの時期が早く、おのずと醸造期間が短くなるため、マルシャン村のブドウでヌーヴォーを仕込むかどうかまだ決めかねており、状況次第では9月5日に収穫したレーニエに隣接するブドウをヌーヴォーに回すことも視野に入れている。しかしマルシャン村、レーニエ村のいずれであっても、未だかつて経験したことがない素晴らしいブドウであることに違いない！レーニエに隣接するブドウのデキュヴァージュは9月17日に行う予定で、毎日発酵ジュースを試飲しているが、味わいはとてもみずみずしくフルーティでまるでフランボワーズのジュースを飲んでいるような爽やかさがある！今年はエレガントで骨格を兼ね備えたヌーヴォーになるだろう！



ケヴィンは充実の表情



醗酵途中のブドウ

誰もが「歴史的なミレジム」と絶賛する 2018 年！出来上がる前から生産者がワインをこれだけ評価するのは本当に珍しいことだ！今のところ発酵も問題なく順調で、あとは出来上がりを待つのみ！後世に語り継がれるであろう、歴史的なヌーヴォーの完成をぜひ楽しみにお待ちください！

(2018.9.12、13.ドメーヌ突撃訪問)

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2018 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの収穫まであと 1 ヶ月！

2018 年は、冬から 6 月まで日照量と適度な雨に恵まれた理想とも言える天候が続いている！開花もうまく行き、ブドウの房は豊作を期待させるくらいたわわに実っている！昨年の 2017 年は、夏にフルーリー、モルゴン、ムーラン・ア・ヴァンを大規模な雹が襲ったので、まだまだ最後まで何が起こるか分からないが、現地ではすでに「2003 年を超える世紀のグレートヴィンテージになるのでは!？」と、早くも色めきだっている！

カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンのブドウ畑の現状コンディションをレポートします♪

☆ カリーム・ヴィオネ

7 月から日中外で仕事ができないくらいの猛暑が毎日続いている！ブドウは健全に育ち、たくさんの実を付けているが、1 ヶ月以上雨が降っていないので、葉などに少し疲れが見える。また、猛暑が影響しているのか、畑にハチが異常繁殖しているのがちょっと心配だ…。現在行っている仕事は、ブドウ樹まわりの雑草刈りと、トラクターを使って土を鋤く作業。これにより畑の水不足を辛うじて補うことができているが、それでも 8 月はしっかりと雨欲しいところだ。ヴェレゾン は 6 月 20 日から始まった。2017 年同様に、今年のヴェレゾンも例年よりも 7～10 日ほど早い。

今のところ収穫は 9 月 1 日を予定しているが、天気予報によると 8 月 9 日、そしてその翌週にまとまった雨の予報があり、その予報が当たればもっと収穫が早まるかもしれない。とにかく、猛暑のミレジムなので、ブドウの酸が落ちる前に収穫できるよう細心の注意を払うつもりだ！



カリームの畑



ヴェレゾンは終盤（8/8 時点）

☆ ジャン・フォワヤール

ヴェレゾンが始まったのは 6 月の終わり。収穫は今のところ 9 月 4 日、5 日で考えている。7 月から続く猛暑と日照りにより春に多く降った雨は帳消し…。連日 35℃を超える暑さが続いている！雨の予報はたったの 1 度だけ 27 日にあったが、実際に降ったのは雹混じりの雨…。それも雷雨はものの 5 分も経たないうちに止み、結局雨量はたったの 2 mm だけだった。また、30 日は気温が 40℃を超え、西日の強い日差しにより一部ブドウが焼けてしまった…。とにかく、今は日照りによりブドウに水が足りていない状態だ。巷では世紀のミレジム 2003 年の再来と期待感が高まっているが、実際エレガントで軽やかなヌーヴォーが好きな私にとっては、当たり年のワインほど味わいのバランスの調整が難しい…。いつもの自分らしいエレガントなヌーヴォーに仕上げるためには、ここで是が非でも雨が欲しいところだ！



ジャンの畑



ヴェレゾン終盤 (8/8 時点)

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

7月から連日日中の気温が 35℃を超える猛暑が続いている。それと同時に、雨がほとんど降らないため畑は少し水不足の状態にある。だが、幸いにもブドウの房は今のところ傷ひとつなくたわわにあり、一時心配されたミルデューの猛威も猛暑によりあっという間に去った！マルシャン村の畑は標高がありブドウが晩熟なので、ヌーヴォーの仕込みは時間的にいつもギリギリなのだが、今年はブドウの熟すペースが去年よりも早いので、仕込みに少し余裕がありそうだ！ヴェレゾンは7月初めに始まった。ヴェレゾンから 40~45 日後に収穫を考えると、今年の収穫は予定通り 9月 15日、いや、もっと早まるかもしれない。

いずれにせよ、全ては 8月の天候にかかっているのだが、このまま暑さが続けば巷で騒がれる 2003 年のような世紀のミレジムになるかもしれない。ただ、個人的には 2003 年のようなボリュームのあるマッチョなワインよりも、ヌーヴォーはやはりピュアでみずみずしいタイプの方が好きなので、8月は暑すぎず、そして特に雨が適度に降ることを願っている。



ケヴィンの畑



ヴェレゾンは中盤 (8/8 時点)

7月初めまでとても順調だった 3人だが、ここに来て猛暑と日照りによる水不足に頭を抱えている…。8月に入り雨予報が多く、まとまった雨に期待していたのだが、今のところ 8月 9日にケヴィンのマルシャン村の畑に、12日にカリーム、ジャンの畑にほんの少し降ったぐらいのようだ。まだまだ水不足には変わりはないが、雨の前から気温が 10℃ほど下がり、現在日中の気温は 25℃前後と、エレガントなワインを造る彼らにとっては理想的なコンディションになってきている！

2018 年もいよいよ収穫のカウントダウンが始まった！これからますます目が離せない！

ボジョレー・ヌーヴォー速報 2018 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2017 年は、4 月終わってから 5 月初めにかけてフランスの広範囲に被害をもたらした遅霜、そして 2 年連続フルーリー、モルゴン、ムーラン・ナ・ヴァンを襲った雹の被害、夏の猛暑と日照り、収穫直前に降った恵みの雨と、環境が大きく変わりながらも、最後に素晴らしいワインに仕上がった！

2018 年、春は雨の多いスタートとなったが、ここまでブドウは順調そのものだ。果たして今年はどのようなミレジムになるのだろうか!?

☆ カリーム・ヴィオネ

今年は今のところ霜の被害も雹の被害もなく、ブドウは順調に育っている。このまま何もなければ、昨年雹の被害で収量が取れなかったランシエのブドウと、昨年新しく畑を取得したランティニエのブドウをアッサンブラージュする予定だ。開花はランシエが 5 月中旬、標高の高いランティニエが 5 月下旬に始まりわずか 4 日間で終わった。今年は房が多く、このまま行くと豊作が期待できそう。ただ、ひとつ気になる点としては、ブドウの葉が所々赤く色が変化していることだ。これは La carence en potassium（カリウム欠乏）と言われる現象だが、特にブドウの収量が過度な時に起こりやすい。赤く葉が変色すると光合成が妨げられるため、ブドウの成熟に影響すると言われているが、個人的には経験上それほど深刻な現象とは思っていない。今のところ部分的なのでそのまま放置し、補填として海藻エキスをボルドー液散布に混ぜて散布し対処するつもりだ。今年の収穫は、このまま何もなく良い天候が続けば昨年よりも早く 8 月の終わり、遅くとも 9 月頭には間違いなく開始しているだろう。



やや赤みがかった葉



順調に生育するランシエの畑

☆ ジャン・フォワヤール

今年の開花は 5 月終わりに始まった。早熟だった昨年よりもさらに 1 週間ほど早い開花だ。今のところ病気もなくブドウの房もいつも以上に多く実っているので、ドメーヌとしては非常に喜ばしいことだ。だが、ここ 2 週間ほど続いている猛暑や局地的な豪雨、年々ブドウの成長が早まっている現象をみると、明らかに地球規模の気候変動が起こっていると言いか言いようがない。天気予報はほぼ毎日雷雨と雹の注意報が出ているし、今現時点でブドウが完ぺきだとしても、翌日雹で全滅してしまうリスクがあることを忘れてはならない。今年の収穫は、前年同様に 9 月の初めを予想している。ただし、このまま猛暑が続くようであれば、8 月の収穫もあり得るかもしれない。



病気や房付きも全く問題ない



畑全体を見渡しても問題は見当たらない

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

昨年のブドウ開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑で 5 月終わりに始まった。ブドウの熟しが早かった去年よりもさらに 1 週間早い開花だ！2 年連続房が少なかった影響なのか、今年は久々にブドウがたくさん付いていて、大豊作が期待できそうだ！このところ日中の気温が 35℃を超えるような夏日が連日に渡って続いているが、春に多く降った雨のおかげで、今のところ水不足の心配もなく、ブドウの実も大きく健全に育っている。また、病気においては、他の地域でミルデューの被害を多く耳にするが、このヌーヴォーの畑は幸いにしてミルデューの染み跡一つなく、ほぼ完璧な状態を保っている！ただ、天気予報では毎日のように積乱雲の発生警報があり、昨年 7 月の雹の被害の例もあり、まだまだ予断を許さない状況だ。今年はブドウの成長ペースが去年同様に早い、ブドウの房が多い分熟するのに時間がかかるため、収穫日は 9 月 15 日前後で考えている。



例年に比べて房付きは多め



マルシャン村の畑はかなりの急斜面

今のところ 3 生産者共にブドウの成長は順調で、さらに今年は収量も期待できそうだ！ただ、猛暑がもたらす局地的な雹のリスクがあることを忘れてはならない。例年を見ても 7 月～8 月前半とここからが最も危険な時期を迎えるが、今年こそは是非ともこのレッドゾーンを何事もなく切り抜けていただきたいと願っている。次のレポートも乞うご期待ください！

(2018.7.4 ドメーヌ突撃訪問)